

河川整備計画(維持管理)の 目標・整備メニュー(案)について

治水上の課題

(1) 都市河川にふさわしい安全性を備える

沿川が一体となった防災システムを作ること

流域自治体や住民との連携による減災を目指すこと

洪水時の関係機関との連携を強化すること



人との関わりの面からみた課題

- (1) 治水機能を維持するための施設管理を行う
 - 堤防の適正な利用に努めること
 - 水防緊急時などの河川管理用通路を確保すること
 - 堤防上の占用家屋の移転を促進すること
- (2) 治水を念頭に置いた高水敷利用を行う
 - 公共空間としての適正な利用を促進すること
 - 高水敷にある施設の使用方法や農業用資材放置への対策を行うこと
- (3) 公共の河川空間として望ましい環境にする
 - 川へのアクセスを確保すること
 - 河川敷を美しく親しみやすい環境や景観にすること
- (4) 地域に根ざした河川整備を行う
 - 歴史・文化・生活と密着した河川空間の創造を進めること
 - 家族で親しめる川づくりを進めること
 - 「ホームレス問題」を社会的な課題として取り組むこと



河川整備計画 河川管理上に関する現状と課題



河川管理施設や水防活動拠点の機能の維持、適切な管理が必要。



種類	河川名	箇所数
●	水門	庄内川 1箇所
	樋門・樋管	庄内川 2箇所
		土岐川 4箇所
		矢田川 1箇所
排水機場	土岐川 1箇所	
●	水防拠点	庄内川 2箇所
	土岐川 1箇所	
●	洗堰	庄内川 1箇所
●	陸閘	庄内川 3箇所

激特事業により堤防整備は大幅に進んだが、依然整備水準は低く、堤防の適切な維持管理と流下能力の維持が必要。

堤防整備状況平面図



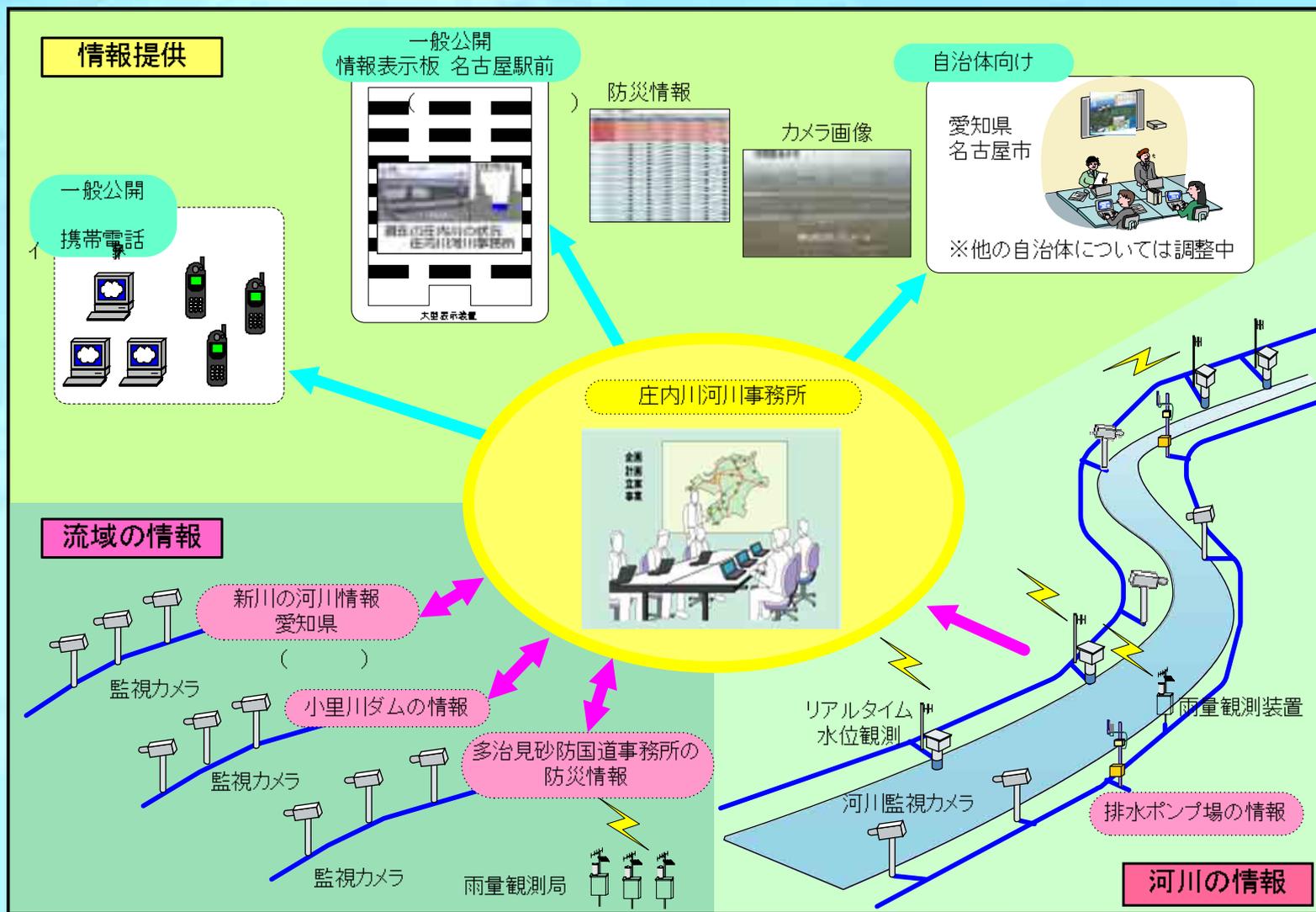
観測データや河川監視カメラ映像など様々な河川情報が収集可能。

水位・流量・雨量観測所及び監視カメラ設置位置図



防災情報の共有化及び情報提供の現状。

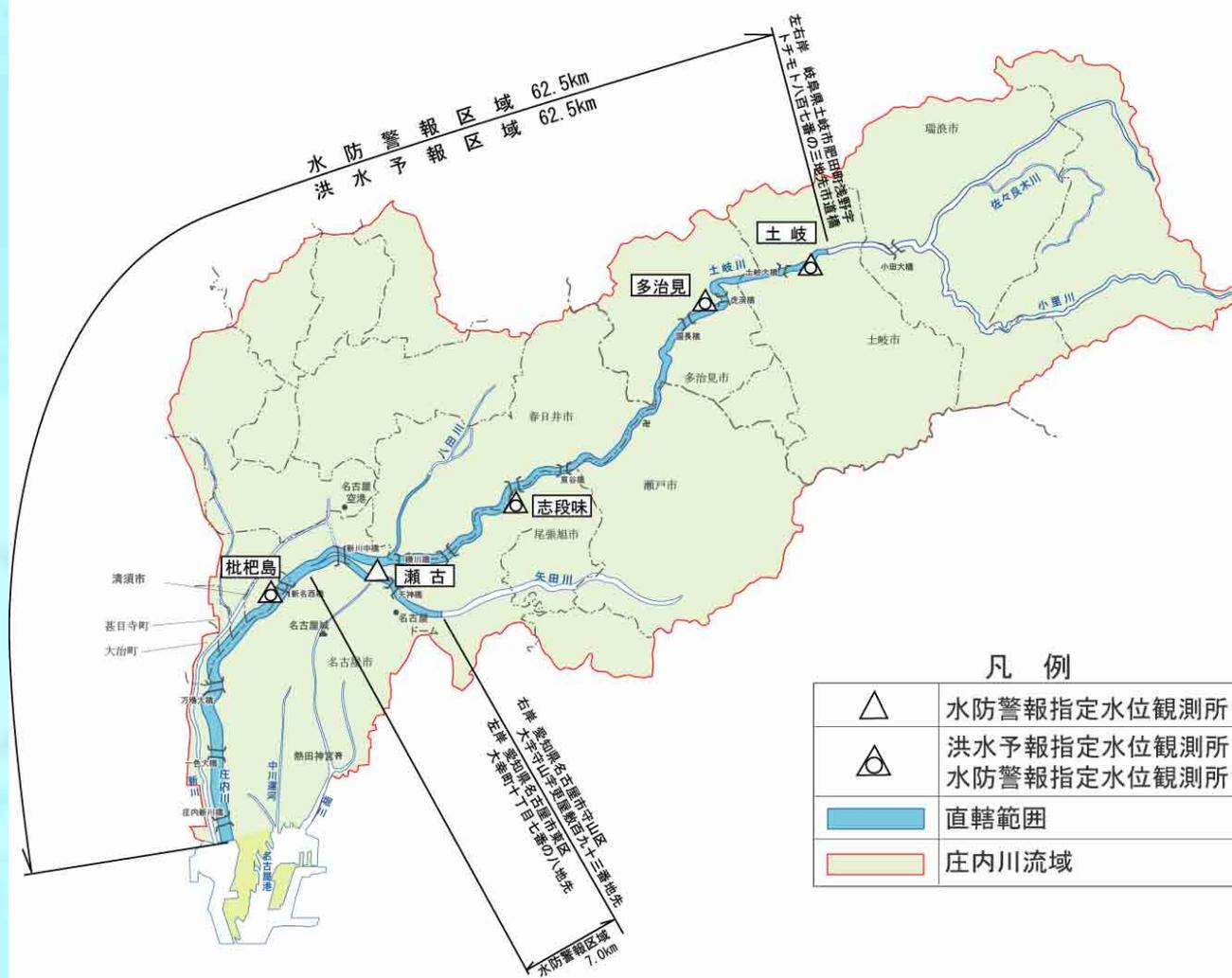
新川との防災情報の共有化は図れているが、自治体への情報提供が必要



水防警報、洪水予報の指定区間の現状。

防災意識の向上、洪水時等の関係機関との連携体制の確立が必要

水防警報、洪水予報指定河川の指定範囲及び基準観測所の位置図



排水ポンプ運転調整ルールの的確な運用、基準の見直しが必要。

洪水が河道の流下能力を上回り、越水・破堤など重大な災害の発生する恐れのある場合、甚大な被害を回避するため、排水ポンプ場の運転調整を行うルールを策定している。

このルールは、河道の整備に伴い基準を見直すものとしており、激特事業が概ね完了した平成17年度に基準の見直し(緩和)を行った。

運転調整を行う基準

【運転調整の準備を行う水位】

- ・ 枇杷島水位がT.P.+6.40m(準備水位)

【運転調整を行う基準】

- ・ 一色大橋水位がT.P.+4.20m(基準水位)
- ・ 庄内川堤防が越水・破堤
- ・ 新川において排水調整を行っており、かつ、庄内川の洪水が新川洗堰を越流する時(新川洗堰より上流のポンプ場が対象)

運転調整対象排水ポンプ場位置図



堤防道路は交通量が多く、大型車混入率も高い。

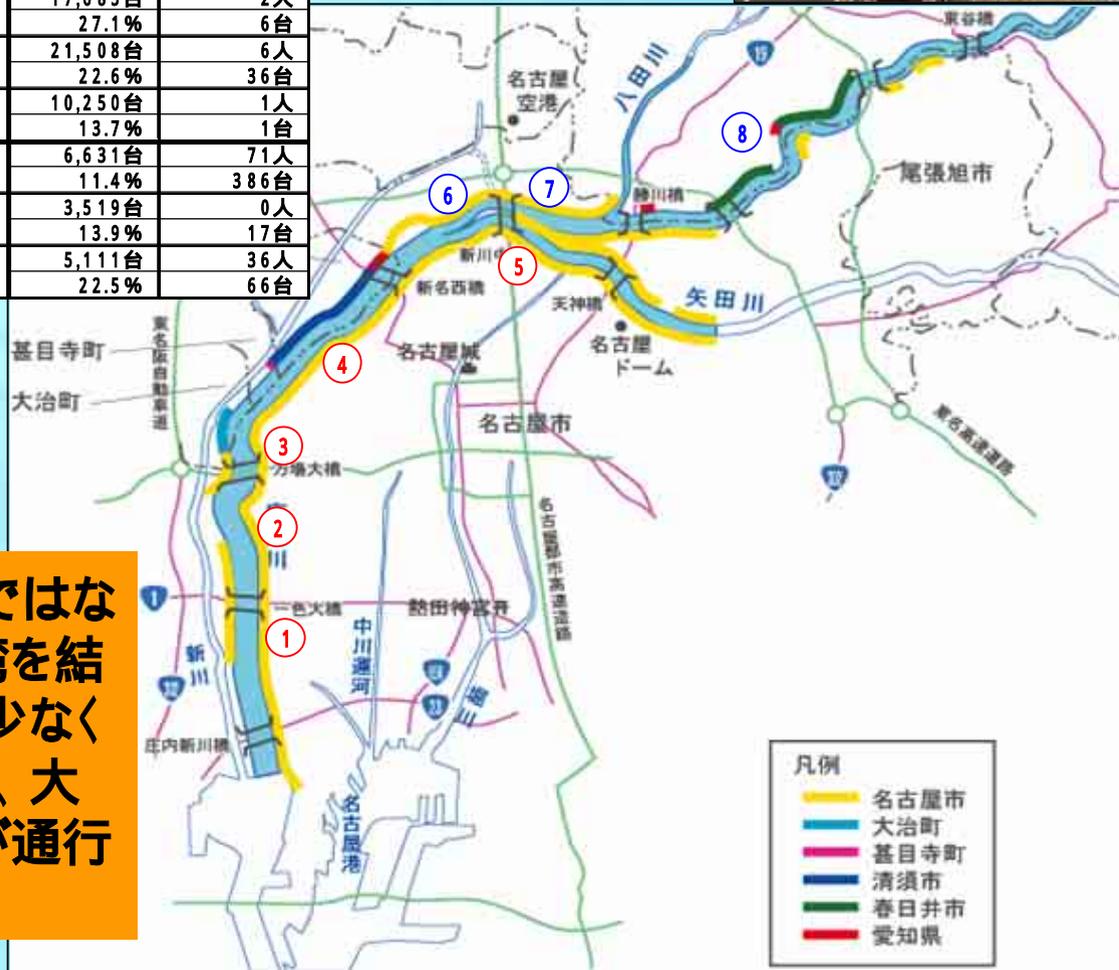


(庄内川左岸14.2km付近)

番号	位置	観測地点名	平日12時間(7時台~18時台)	
			交通量	歩行者類数
			大型車混入率	自転車類数
1	庄内川 左岸 4.0km付近	名古屋市港区小碓町字三十三番割	3,725台	38人
2	庄内川 左岸 6.0km付近	名古屋市中川区中須町	9,313台	0人
3	庄内川 左岸 9.0km付近	名古屋市中村区岩塚町字八ツ屋通	17,685台	6台
4	庄内川 左岸 13.0km付近	名古屋市中村区日比津町字古川	21,508台	6人
5	矢田川 左岸 3.0km付近	名古屋市北区成願寺町	10,250台	1人
6	庄内川 右岸 18.0km付近	名古屋市西区坂井戸町	6,631台	71人
7	庄内川 右岸 21.0km付近	名古屋市北区楠町味鏡	3,519台	0人
8	庄内川 右岸 29.0km付近	春日井市松河戸町字村中	5,111台	36人
			22.5%	66台

平成11年度道路交通センサス

堤防道路は、都市計画道路ではないが、北部の工業地域と港湾を結ぶ道路となっており、信号が少なく通りやすくなっていることから、大型車を中心に多くの自動車が行き来している。



堤防に道路が兼用されているために生ずる様々な課題。

堤防の不安定化、損傷

法面崩壊



路面の損傷



道路交通安全上、 河川利用上の課題

転落事故



歩行、堤防横断の困難さ



水防活動等への支障

水防活動への支障



交通渋滞



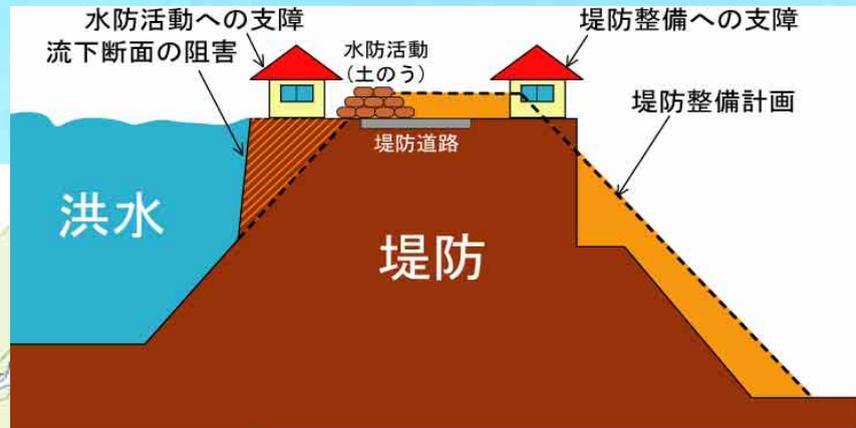
不法投棄



河川整備とともに占用家屋は減少しているが、依然多くの家屋が存在。

占用家屋数 約100件(H18.3現在)

堤防上の占用家屋が堤防整備、水防活動に支障



凡例

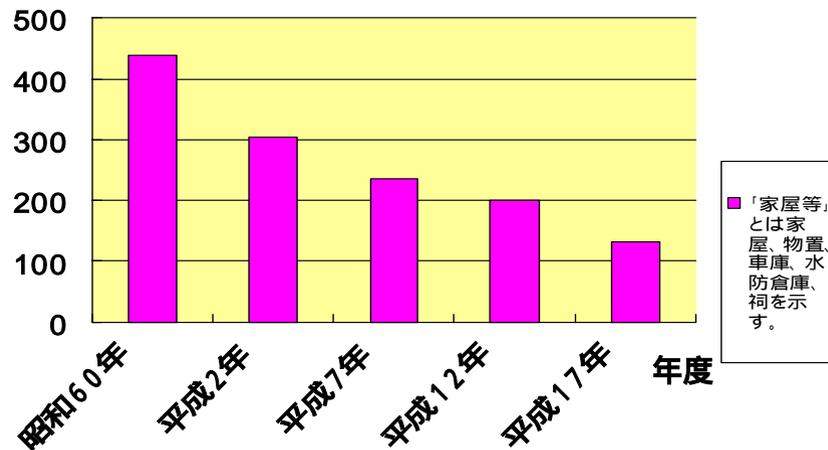
占用家屋



平成18年現在の占用家屋



占用家屋経年変化グラフ



「家屋等」とは家屋、物置、車庫、水防倉庫、祠を示す。

許可工作物の適正な管理、高水敷などの適正な利用の促進が必要。

出水時に適切な管理が行われない



洪水時に放置された
ゴルフ場のネットと
農業資材



遊休化する施設の 撤去がなされていない



捨てられたゴミの漂着



後を絶たないゴミの不法投棄



高水敷で迷惑行為が行われる



高水敷での
ゴルフ練習など

社会的課題としてホームレスの自立に向けた支援が必要。

ホームレスの状況

ホームレスの人数(H17.5現在)

庄内川全体	: 134人
下流部(約 6 ~ 17 km)	: 97人
中流部(約 19 ~ 26 km)	: 16人
矢田川	: 17人
八田川	: 4人

【河川ならではの課題】

- ・洪水による危険性
- ・橋梁下の火災による
ライフライン等の損傷



平常時の河川敷の状況



洪水時の河川敷の状況



地域の方々による河川清掃などが実施されている。

川と海のクリーン大作戦



アダプト活動



流域小学校による河川清掃活動



H17クリーン大作戦の状況

	収集ゴミ	参加人数
上流部(土岐市)	8 m ³	約200人
上流部(多治見市)	5 m ³	約400人
中流部(春日井市)	5 t	約200人
河口部(名古屋市)	90 m ³	約600人

減災対策

- ・河川管理施設や水防活動拠点の機能の維持、適切な管理が必要。
- ・河川整備水準は低く、堤防の適切な維持管理と流下能力の維持が必要。
- ・防災情報の共有化、迅速でわかりやすい情報提供が必要。
- ・防災意識の向上、洪水時等の関係機関との連携体制の確立が必要。
- ・排水ポンプ運転調整ルールの的確な運用、基準の見直しが必要。

河川空間の管理、利用

- ・堤防道路は交通量が多く、水防活動や利用面などで様々な課題を抱えている。
- ・占用家屋は減少しているものの、依然多くの家屋が存在している。
- ・許可工作物の適正な管理、高水敷等の適正な利用の促進が必要。
- ・社会的な課題としてホームレスの自立に向けた支援が必要。
- ・地域と協働した河川管理の推進が必要。



河川整備計画(維持管理)の目標(案)



庄内川水系河川整備基本方針の骨子(維持管理)

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

ア．災害の発生の防止又は軽減

(流域全体の河川整備の方針)

計画規模を上回る洪水及び整備途上段階での施設能力以上の洪水が発生し氾濫した場合でも、被害を軽減できるよう、必要に応じた対策を実施。特に、本川下流部の稠密な人口・資産の集積地域における甚大な被害ができるだけ発生しないよう、中下流部等の河道掘削及び水系全体にわたる内水排除について、的確な規制等を行う。

(河川管理施設の管理、ソフト対策)

河川管理施設の機能の確保及び施設管理の高度化、効率化。

情報伝達体制の充実等の総合的な被害軽減対策。

ウ．河川環境の整備と保全

(河川敷地の占用及び工作物の設置、管理)

治水、利水、河川環境との調和を図る。

(地域の魅力と活力を引き出す河川管理)

河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災学習、河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図る。

住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を推進。



河川の維持管理に関する目標(案)

1. 減災対策

防災時における的確な対応が行えるよう、日常管理を徹底するとともに、減災に向けたハード・ソフト対策を実施する。

2. 河川空間の管理、利用

地域と一体となって、安全かつ快適な河川管理、河川利用の推進に努める。



河川整備計画(維持管理)メニュー(案)



河川管理施設の機能の維持、適切な管理

< 整備内容 >

- ・河川巡視
- ・施設管理
- ・補修
- ・堤防除草

< 整備の詳細 >

- ・河川管理施設の機能の維持を図るために、河川巡視および施設の管理を行うとともに、施設の老朽化に応じ適切な補修を行い、長期にわたり効用を発揮できるよう努める。
- ・堤防の異常箇所の早期発見等を目的として堤防除草を実施する。除草により発生した刈草については、飼料として農家へ提供する等により有効利用を進める。

河川巡視



補修



施設点検



堤防除草



防災活動拠点の機能確保

< 整備内容 >

- ・水防拠点、水防倉庫の維持管理
- ・水防資機材、災害対策車の常備
- ・第二種側帯の整備

< 整備の詳細 >

- ・水防拠点、水防倉庫が、洪水時等に十分な機能を発揮できるように、自治体と連携して施設の維持管理、水防の資機材等を常備するとともに、備蓄土砂として第二種側帯の整備を図る。

< 関係機関 >

市町の防災部局、土木部局

水防拠点の整備



下之一色水防拠点 (3.4k右岸付近)



西枇杷島水防拠点 (13.8k右岸付近)

第二種側帯の整備



第二種側帯 (9.0k右岸付近)

水防資機材等の常備 (水防拠点)



土岐水防拠点 (56.3k右岸付近)



備蓄ブロック (西枇杷島水防拠点)



ヘリポート (西枇杷島水防拠点)

流下能力の維持

< 整備内容 >

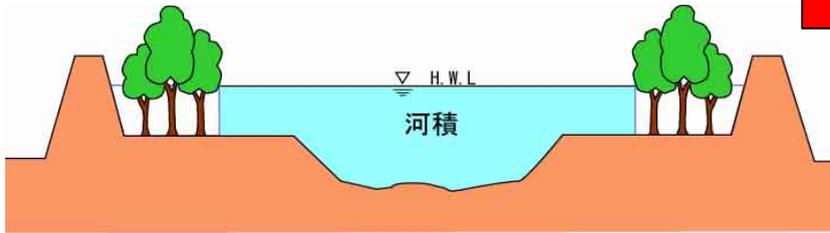
- ・流下能力の維持
(堆積土砂の掘削、河道内樹木の管理)

< 整備の詳細 >

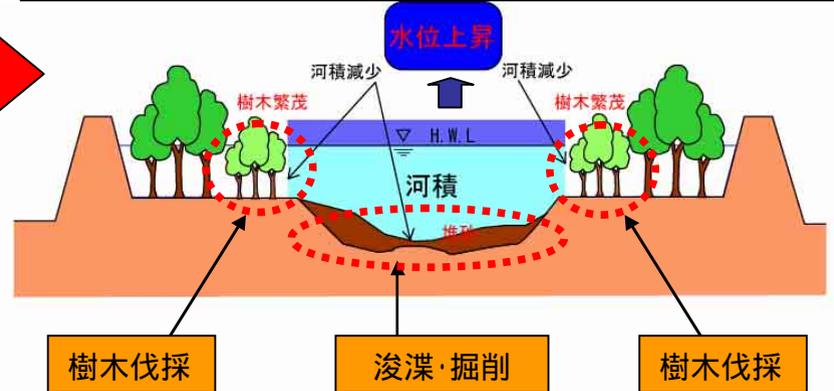
- ・河道掘削後等河道内の土砂の堆積や樹木の繁茂状況を継続して監視し、流下阻害となった場合においては、自然環境等に与える影響を出来る限り少なくなるよう配慮しながら、堆積土砂の掘削および樹木の伐採を実施する。

流下能力の維持

整備後の河道



整備後の河道内における維持掘削・河道内樹木管理イメージ



維持掘削状況



河道内樹木の繁茂状況

河川管理施設の適切な操作及び洪水時の防災情報の収集・伝達

< 整備内容 >

- ・河川管理施設の適切な操作
- ・関係機関との情報共有
- ・多方面からの的確で迅速かつわかりやすい情報の収集・伝達

< 整備の詳細 >

- ・小里川ダムや各樋門・樋管等は、河川状況を的確に把握し、適切な操作を行う。
- ・情報ネットワークにより地元自治体等と河川管理者が持つ情報の確実な共有化を図る。
- ・災害時には、河川情報や内水被害状況を把握するため、巡視やIT設備、関係機関及び住民から情報を収集するとともに、的確な水防活動、避難ができるよう、それらに関係機関および住民に迅速にわかりやすく、多様な手段を使って提供する。
- ・危険水位等の判読しやすい表示を、危険箇所や主要地点に設置し、地域住民に情報提供を行う。また洪水が危険水位等に達した際は、速やかにHP等に情報を掲載する。

< 関係機関 >

気象庁、県、市町の防災部局、土木部局、住民、マスコミ、協力者ほか

小里川ダムの管理



的確な水防活動、避難行動ができるよう判断しやすい、わかりやすい情報を、テレビや携帯など様々な手段を用いて提供を図る



防災意識の向上、洪水時等の連携体制の確立

< 整備内容 >

- ・浸水想定区域図の作成、ハザードマップの作成・高度化・普及支援、重要水防箇所など防災に係わる情報の提供・啓発活動
- ・地域との連携による
防災・危機管理能力の向上
(防災訓練、避難訓練、
災害情報協議会等)
- ・水防団組織の充実
(水防団、水防協力団体等)
- ・災害時の対応の確立
(災害協力協定、防災エキスパート、
災害対策車等の有効活用等)

< 整備の詳細 >

- ・より地域と連携した防災訓練、避難訓練を実施し、連携を深めていくとともに、洪水ハザードマップ等を用いた学校教育での防災教育、地域の防災講座の実施などの啓発活動により、流域住民の治水の現状及び水害に対する理解を深める。
- ・全国各地で災害が頻発する中、水防活動の重要性が高まってきている。そのためNPO・公益法人による水防協力団体の育成と水防団との連携を高めるとともに、関係企業などとの災害協力体制や防災エキスパートとの協力体制を確立し、迅速な対応ができるよう努める。また自治体の災害支援に向け、災害対策車等の有効活用を進める。
- ・河川整備に伴うハザードマップの見直し作業や首長等も参加するロールプレイング方式の情報伝達演習の実施を支援するなど、災害情報協議会等を通じて自治体の防災・危機管理能力を高める。

< 関係機関 >

市町の防災部局、土木部局、住民、市民団体、企業

地域との連携による防災・危機
管理能力の向上



自治体と共同したロールプレイング方式の防災訓練

わかりやすいハザードマップの作成・高度化(外水・内
水複合、動くハザードマップなど)・普及などの支援



ハザードマップの高度化イメージ
(動くハザードマップ)

排水ポンプ運転調整ルールの的確な運用、基準の見直し

< 整備内容 >

- ・排水ポンプ運転調整ルールの的確な運用、基準の見直し

< 整備の詳細 >

- ・河川の整備水準を超える洪水が発生した場合、甚大となる外水被害の発生を防ぐために、内水の排水ポンプの運転調整ルールを定めており、関係機関と連携し実際の洪水時に的確に運用する。
- ・河道の整備に伴い、内水被害を軽減するため、より効果的な基準となるよう適宜見直ししていく。

< 関係機関 >

市町の防災部局、土木部局、下水道部局、県

排水ポンプ運転調整ルールの的確な運用

実際の洪水時には
関係機関と連携し
的確に運転調整ルールを
運用する

市町
(排水ポンプ管理者)

報告
↓
報告・発令

国土交通省
(庄内川河川事務所)

通知
↓
停止状態の連絡

愛知県

連絡体制

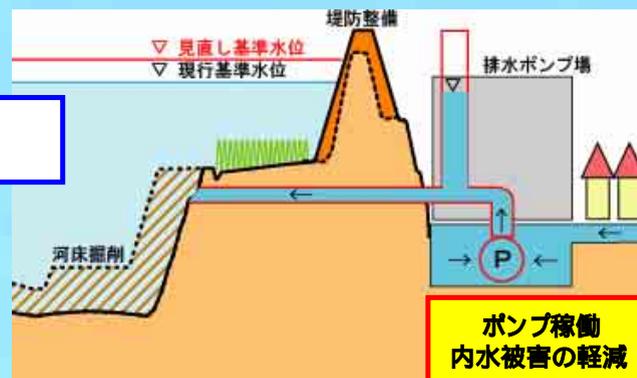
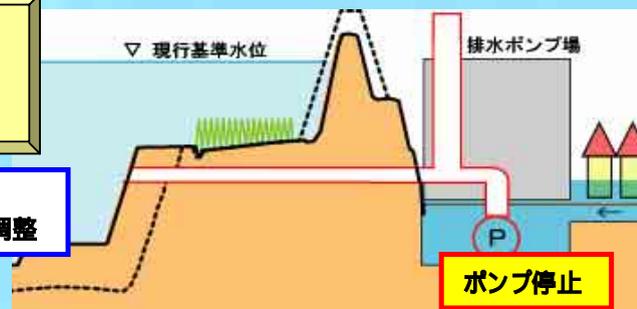
排水ポンプ運転調整の基準の見直し

河道の整備に伴い
運転調整の基準を
見直す

【現行】
基準水位で排水ポンプ運転調整



【堤防整備・河床掘削後】
基準の見直し(緩和)



堤防道路のあり方の検討

< 整備内容 >

- ・堤防道路のあり方の検討
- ・堤防道路の課題の改善

< 整備の詳細 >

- ・堤防道路が抱える数々の課題(堤防の弱体化・損傷、河川巡視・水防活動への支障、河川敷利用の妨げ、通行の危険性等)を改善するため、堤防及び堤防道路のあるべき姿を検討した上で、都市部における堤防道路のニーズと堤防としての機能確保双方の視点から、道路管理者等と連携して検討し、対策を実施していく。

< 関係機関 >

学識経験者、道路管理者、道路利用者、地域住民、市町の防災部局

堤防道路の課題の改善に向けた検討

庄内川 堤防道路検討会

【主旨】

庄内川の堤防及び堤防道路のあるべき姿を検討した上で、道路としてのニーズと堤防としての機能確保双方の視点から、課題を改善するための具体的な検討を行う。

【第1回会議】

平成18年3月20日

【委員】

学識経験者
(関係行政機関はオブザーバー)

庄内川 堤防道路出水時規制調整会議

【主旨】

庄内川の堤防道路の出水時における通行規制について具体化するための調整を行う。

【会議】

第1回 平成18年2月1日
第2回 平成18年5月29日

【委員】

関係行政機関
(河川管理者、道路管理者、
水防管理者、警察)



道路を小段に設置した事例

占用家屋の移転促進、許可工作物の適正な管理

< 整備内容 >

- ・ 占用家屋の移転促進
- ・ 許可工作物の適正な管理・改築指導

< 整備の詳細 >

- ・ 占用家屋については、堤防の管理・水防活動・堤防整備に支障になるため、現在まで鋭意、解消してきているところで、今後も適宜指導し、鋭意移転を促進していく。
- ・ 河川内の工作物については、洪水時に流下阻害とならないよう、日常及び出水時の管理を徹底させ、必要に応じ立会点検や撤去、改善指導を実施する。

< 関係機関 >

許可工作物管理者

占用家屋の移転促進



占用家屋移転の例(明徳橋右岸)

許可工作物の適正な管理・改築指導



許可工作物点検状況



高水敷などの適正な利用の促進

< 整備内容 >

- ・高水敷などの適正な利用の促進

< 整備の詳細 >

- ・ゴミの不法投棄の抑制やゴルフ練習など他人に迷惑となる行為の注意喚起を図るため、夜間・休日巡視や関係機関との共同巡視を実施するとともに、注意喚起のチラシ配布や看板設置を行う。
- ・迷惑行為は人目が見えない場所で行われるケースが多いことから、河川利用者や市民団体等の協力による通報体制の確立など、多様な監視方法を検討する。
- ・安全な高水敷利用の妨げとなる危険箇所の把握と対策を行うとともに、安全な利用を図るための啓発手法等について、関係自治体や流域住民とともに検討を進め、実施していく。

< 関係機関 >

地域住民、関係市町

高水敷などの適正な利用の促進

高水敷でのゴルフ練習や
不法投棄などの
禁止の呼びかけ



安全利用マップ(案)

社会的な課題としてホームレスの自立に向けた支援

< 整備内容 >

- ・ホームレス自立支援に向けての対策の推進

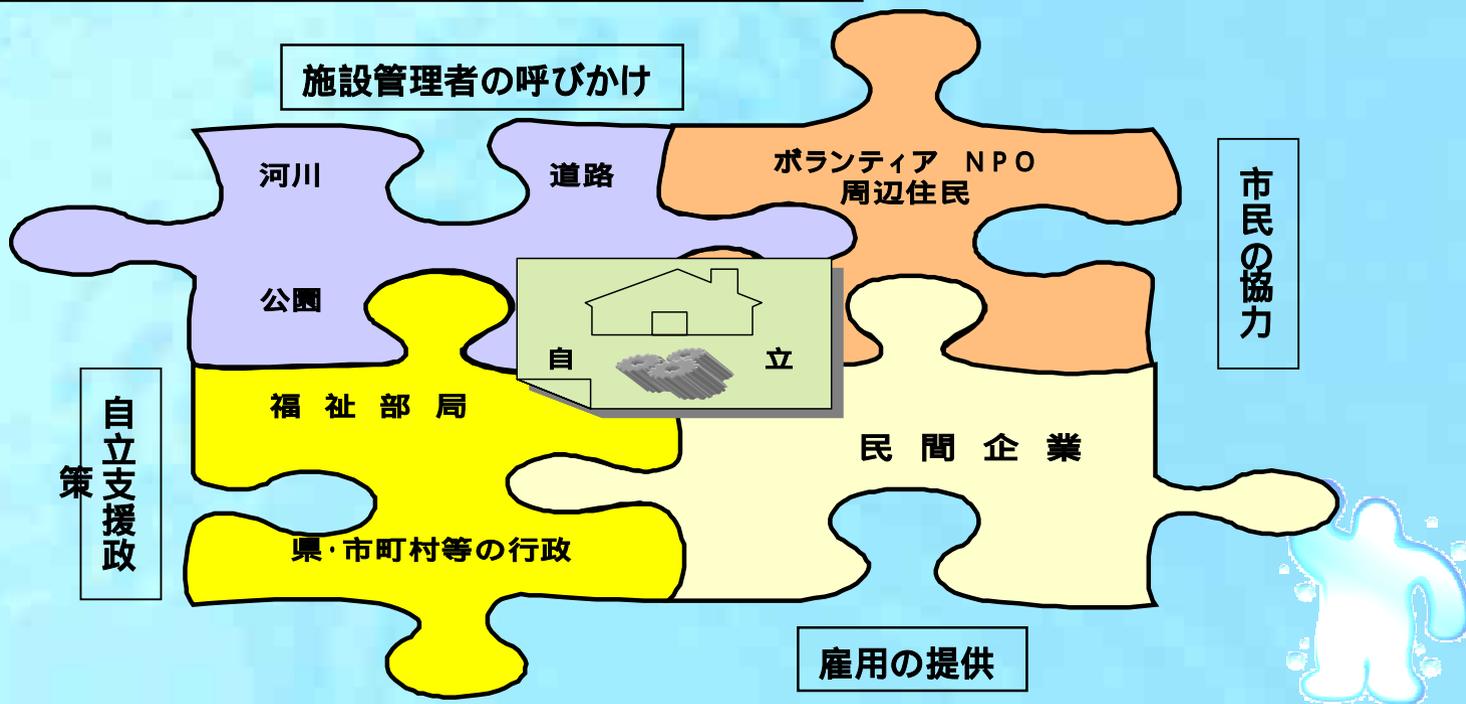
< 整備の詳細 >

- ・土岐川庄内川の河川敷では、職や住居を失うなどの事情により、ホームレスの方々が河川内に居住することを余儀なくされている社会状況がある。しかし、河川は洪水により、ホームレスの方々の生命が危険にさらされることがあり、居住に適した場所ではない。この現状を市民、企業、行政が理解し、ホームレスの方々の現状や意向を把握しながら、人権を第一に、地方公共団体、市民、支援団体、企業等と連携を図りながら、自立を支援していく。

< 関係機関 >

市民、支援団体、県、関係市町、企業

人権を第一に行政、市民、支援団体、企業等が連携した自立支援の推進



地域と協働した河川管理の推進

< 整備内容 >

- ・地域と一体となった河川の適正利用の推進
- ・地域住民との協働活動の推進
- ・庄内川アダプト事業の推進

< 整備の詳細 >

- ・行政機関だけでは困難な高水敷などの適正な利用を促進するため、地域住民と協働した河川管理を推進する。
- ・ゴミの不法投棄を減らすなどの啓発、効果を目指し、地域住民・市民団体等と行政が河川清掃活動を進め、広めていく。(クリーン大作戦等)
- ・地域住民で組織する団体の自主的な参画により、より良い河川管理を目指す。(庄内川アダプト事業等)

< 関係機関 >

地域住民、関係市町、アダプト事業参加団体

地域と一体となった河川の適正利用の推進



市民団体等との協働活動
(クリーン大作戦)

アダプト事業の推進



アダプト事業参加団体による活動状況
(河川清掃)

庄内川アダプト参加団体

参加団体名
愛知電機(株)
アサヒビール(株)名古屋工場
アスモ綜工
王子製紙(株)春日井工場
春日井カヌークラブ
庄内川・土岐川流域ネットワーク
なかぎりワークス
長須賀学区連絡協議会
名古屋北シニアリーグ野球協会
名古屋北リトルリーグ野球協会
名古屋市水辺研究会
名古屋ファイターズ中学部
庄内川ボート協議会
名古屋西部グラウンド・ゴルフ愛好会

(平成18年4月現在 順不同)

地域活動支援

< 整備内容 >

・地域住民・市民団体の活動支援

< 整備の詳細 >

土岐川庄内川流域の川に関する環境学習の活動をはじめとする地域住民や市民団体のワークショップなどの活動を支援していく。

< 関係機関 >

地域住民、市民団体、市町、県など

流域の市民活動

第1回土岐川・庄内川源流森の健康診断

10月29日(土)

第1回

土岐川・庄内川源流
森の健康診断

235名

10月29日(土)、土岐川・庄内川流域ネットワークが呼びかけ人となって進めてきた「第1回土岐川・庄内川源流森の健康診断」が、235名の参加で行われました。

あいにくの雨にも関わらず19チーム(10~15人編成)に別れて元気に出発し、28ポイントの調査を行いました。調査結果は、来年3月頃を目途にまとめ発表されます。



雨の中「森の健康診断」に出発する参加者 中継大学恵那キャンパスで記念撮影

川ナビの活動



野鳥観察会



Eボートによる川下り



水生生物調査

